北陸石仏の会々報

井波石工　岩崎弥吉

尾田　武雄

富山県南砺市井波には、石屋町という俗地名があった。『いなみ地名の由来と伝説　井波地区』（井波町教育委員会編　平成五年刊）によると「脇本魚店向かいの東大谷川沿いに、昭和初期まで石屋さんが軒を並べていたので、この通りを石屋町と呼んでいた。閑乗寺台地の奥まった南斜面は字石山といわれ、その石切場から石を切り出して石仏、石臼、根太石、墓石などを加工していた。」とある。今はその面影はないが、民家の柱に「石屋町」の標識を見つけた。この周辺で仕事をされていたと思われる石工も多くいた。その中で、岩崎弥吉につて報告したい。石工名のある石仏は六体あり、年次在銘のある石仏は四体がある。最も古いのが大正六年（一九一七）であり、新しいのが昭和五年（一九三〇）である。

製作品も地蔵、如意輪観音、不動明王、戦没碑、狛犬とバラエティーに富んでいる。銘が六体であるが、まだまだ銘にない作品があるのではないかと思われる。注意深く調査を続けていきたいと思う。

井波石工岩崎弥吉作品一覧

№	石工銘	尊名・名称	年次在銘	西暦	所在地
1	石工井波岩崎弥吉	狛犬	大正六年	1917	南砺市桐木神明宮（福野町）
2	石工井波岩崎	如意輪観音	昭和三年	1928	南砺市沖（井波町）
3	作人井波岩崎弥吉	不動明王	昭和五年	1930	南砺市高屋古宮（井波町）
4	井波　岩サキヤ吉	如意輪観音	大正十年六月二日	1924	砺波市伏木谷
5	井波　岩崎弥吉	狛犬	無し		南砺市沖神明宮
6	作人井波岩崎弥吉	十一面観音	無し		砺波市荒高屋

1　狛犬　南砺市桐木神明宮

第73号
令和6年9月5日発行
編集と発行
北陸石仏の会
（日本石仏協会北陸支部）
代表　平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田1770　尾田武雄方
電話　0763-32-2772
振替　00740-2-11974
（年会費　3000 円）
ホームページ
http://odatakeo.wp.xdomain.jp/

・井波石工　岩崎弥吉
・右立山道碑石の変遷
・三ノ坂往来義賢名号塔
・第66回例会報告
・第67回例会案内

３　不動明王　南砺市高屋古宮

２　如意輪観音　南砺市沖

４　如意輪観音　砺波市伏木谷

６　十一面観音　南砺市荒高屋

５　狛犬　南砺市沖神明宮

二松「右立山道」碑石の変遷と立山登山道

平井 一雄

富山県富山市旧大沢野町二松の「右立山道」碑石の右側に尾洲春日井邦／河原村、左側には油屋弥吉／沖村／半屋友右工門と記されている。

尾洲春日井郡は現在の愛知県春日井市で、春日井市は名古屋、多治見、土岐、瑞浪、各市の中間に位置し商工業の中心地である。河原村、沖村在住の商家の旦那方二名が店の若衆を供に連れて、岐阜、高山経由、一ヶ月位の日程で立山参詣が行なわれた。下タ地区から舟倉地区を経て福沢方面に行かれたと思う。途中道筋等を書き留め、参詣を終って帰り道、下タ地区で自分達が苦労して道を探したことを考え、道しるべを作る事を決心され、地元の石屋に頼み、建る場所、個数をしたため、代金を払って帰ったものであろう。

二人の篤志家の善意により数多くの人々に喜ばれた事と思う。時期は文化文政の頃であろう。

「右立山道」の道標は二松町屋敷歩数打立帳にあん屋敷、横巾一間五分除くとある。つまり当時、既に九尺位の道があった角にあったといわれている。

この道は当時、立山登山道であり、塩野古田の取入口を利用した万願寺道であった。判りにくかったので、この道の人口に置かれたものと思う。『開村百七十年記念　二松のあゆみ』昭和59年より引用。

この碑石は私が確認した昭和59年10月29日万願寺道左側にあった時を一回目①とすると②二回目、二松公民館前、万願寺道右側③と三回移転している。万願寺道が整備中の時、一時的に公民館前で保存され、道の整備が終り、本来の飛騨より立山に向かう方向を示すことになって③万願寺道右側に建立された。刻字は摩耗して読み取りにくくなった。

万願寺三叉路には④「左立山道」碑石があり「尾州春日井邦・・・」がかすかに読み取れる。二松「右立山道」と同時に建立されたものと考える。

昭和59年二松略図　『二松のあゆみ』より

①

②

③

旧大沢野町二松　「右立山道」道標の変遷

①万願寺道左側

②二松公民館前

二松公民館前
尾州春日井邦
河原村
右立山道
油屋弥基吉
沖村
半屋友右工門

③万願寺道右側「右立山道」　現状

④万願寺道三叉路　「左立山道」

三ノ坂往来の義賢名号塔

滝本 やすし

石川県金沢市夕日寺地区の三ノ坂往来と称される山道の途中に「南無阿弥陀佛」と刻まれた石塔が建てられており義賢行者の署名と花押が入っているとのご教示を、同地区在住の植田卓志氏から昨年九月にいただいた。今年三月に、植田氏に案内していただき、確認調査を行った。

三ノ坂往来は、北国街道の金沢市大樋町から山王町を経て、二俣町付近でオコ谷往来に合流して南砺市坂本へと通じる山道で、加賀藩前田家の参勤交代にも利用された。三ノ坂往来の途中には、大休場と呼ばれる開けた場所がある。茶屋などがあった場所で、その一角に義賢名号塔が建てられている。

義賢名号塔は赤戸室石（金沢市戸室新保周辺で産出される赤紫色の安山岩）製で、独特の書体の「南無阿弥陀佛」の下に署名と花押が、左側面に「無縁法界」、右側面に「嘉永二己酉年六月」と刻まれている。すぐ手前に大きな石があるが、この名号塔の台石で、かなり以前に撮影されたと思われる写真には名号塔が載せられていた。

義賢は天明六年羽州生まれの浄土宗の僧で、中部地方各地を巡錫した念仏行者である。天保十一年、石動から津幡を経て九月二十五日に金沢に入り、十一月六日まで滞在、松任で宿泊、小松から大聖寺を経て福井へ向かった。石動や津幡に立ち寄るため、三ノ坂往来ではなく北国街道を利用している。その後福井で体調を崩し、森厳寺で入寂された。金沢滞在中の明確な記録は残されていないが、この間に三ノ坂往来を訪れたとは考え辛い。石塔の造立は嘉永二年であり、義賢が金沢を訪れた九年後のことである。金沢滞在中に書かれた書をもとに建てられたのであろうが、願主名などが刻まれていないので、造立の経緯については不明である。

義賢名号塔との関連はないが、大休場から東へ数百メートルの場所に建てられている石塔も案内していただいた。笏谷石（福井市で産出される淡青の凝灰岩）製の角柱型で、正面に大きく「七面大明神」、その右に「右御小はたゑ」、左に「左くるまみち」と刻まれている。左側面に大きく「南無妙法蓮華経」、その右に「右相ひミち」と刻まれている。また右側面に「寛政四壬子閏二月吉日」と刻まれ、その左にも文字が刻まれているが剥落して判読できない。この場所は、七面大明神を祀る車町宝乗寺へと続く道の分岐点である。「御小はたゑ」に該当する地名は見当たらないが、「オコ端へ」（オコ谷往来の端へ）ではないかと考えられる。この道標から車町方面へと進んだ路傍に、笏谷石製の石塔が二基みられる。一基は南無妙法蓮華経と刻まれた題目塔で、右側面に「干時享保三歳八月」と刻まれている。もう一基は残決で、全く判読できない。これら二基は転倒しており、いずれも墓標のようである。

三ノ坂往来大休場の義賢名号塔

義賢名号塔正面

七面大明神車道道標

題目塔

第66回例会報告

旧福光町と旧福野町の石仏めぐり

宮内　七生

五月十九日に行われた今回の例会では、富山県南砺市福光（旧福光町）と福野（旧福野町）の石仏を巡りました。富山県南西部に位置する南砺市は、平野部には散居村が、福光や井波の中心地には古い町並みが、山間地の五箇山には合掌造りの家屋が多く残されています。旧福光町は世界的版画家の棟方志功が戦時中に疎開先として暮らしていたことで知られ、日本画家・石崎光瑶の出身地でもあります。また、旧福野町は古くから南砺地方の交易の中心地で、市場町として発展してきました。歴史と伝統が息づいているこの地域には石仏も多く、今回の見学会でも多種多様な石仏を見ることができました。

初めに向かった坂本の共同墓地の近くには、医王山の朴坂（ほおさか）峠を越えて金沢市二俣町へと続く古道の入り口があります。奈良時代に開かれたこの道は、江戸時代、加賀藩主もこの道を通ったことから「殿様道」と呼ばれていました。道中には、西国三十三か所観音が配置され、墓地の近くの崖の下の草むらには、第一番観音である如意輪観音像がひっそりと安置されています。また、松村家の墓所内には浮彫りの誕生釈迦が置かれています。石造の誕生釈迦は県内でも珍しく、数少ないものの、その他に立山町や高岡市にも作例が確認されています。

次に向かった山本の熊野神社では、令和六年能登半島地震の影響で鳥居が倒壊し、狛犬が台座から落ち、砕け散ったまま置かれていました。改めて県内での地震の被害の大きさを思い知らされました。

熊野神社　倒壊狛犬

福光の市街地、荒町の路傍にある横長の大きな石造りの堂内に八体の石仏が安置されていました。不動明王を中心に、左から如意輪観音、准胝観音、十一面観音、不動明王、千手観音、馬頭観音、聖観音の順に並び、西国三十三か所観音の第十番の観音像も移設され、堂内に納められていました。福光町和泉の旧家である石崎家の石崎彦九郎が願主で、石屋甚右エ門の作と刻まれています。七体は朴坂峠の登り口に安置されたものを、大正時代に現地に移設したと伝わっています。見学会の日にも、お堂には色とりどりの立派な生花が供えられており、石仏や石造りのお堂も保存状態が良く、現在でも信仰が息づいていることを感じました。

田んぼに囲まれた、田中の路傍に石龕が建てられており、中には水天立像が祀られています。元来、この地域の水源にあたる小矢部川堤の近くの旧刀利村にて祀られていたものが、昭和三十六年のダム建設に伴い移設を余儀なくされ、同地に迎えられたとのことです。頭上の冠に五龍（蛇）を頂き、左手に羂索を、右手には剣を持っている姿で表わされ、このような水天像は県内でも十数体の作例が報告されています。その他、鍛治の農地の一角には「水天神宮」と刻まれた六角柱型の碑が建てられています。

高宮の路傍には十数基の五輪塔が並べられています。これらの五輪塔は浄土真宗改宗前の真言宗宝生寺時代に造立されたもので、大きさはまちまちに重ねられており、特に空風輪と水輪が多く、地輪などは失われることが多いようです。

鍛治集落の路傍の石堂に納められていたのは、金剛界大日如来「バン」の板碑です。「大永六年七月」（大永六年は一五二六年）と刻まれており、砺波地方で唯一、銘文が刻まれている板碑です。関東に多く見られる緑泥片岩でできた板碑と石材は異なりますが、小さくて厚みがあり、山形の頭部に二条線と梵字が刻まれています。鍛治村開拓時に田んぼから出土したと伝わっています。

雨潜の雨潜神明社の鳥居の横にある祠の中に、高さ約百三十五センチメートルにもなる浮彫りの不動明王像と脇侍の制吒迦童子と矜羯羅童子が納めら

れています。生涯で千体の石仏を彫ったと伝えられる砺波市庄川町金屋の石工・森川栄次郎の作とされています。

次に向かったのは広安の平田神社です。境内には三対の狛犬が安置されており、特に拝殿内に安置された一対はきめ細やかに彫られています。向かって右側の狛犬は後ろ足をあげ、振り向いた姿をしている逆立ち型の吽形、左側の狛犬からは子どもの獅子が顔を覗かせている阿形で、右が雄、左が雌とされています。大正時代に活躍した金沢の石工・福嶋伊之助によってつくられ、逆立ち狛犬は加賀地方北部を中心に石川県内で約百二十対が確認されています。富山県や福井県にも少数ながら確認されています。

雨潜神明社　不動明王

平田神社　逆立ち狛犬

本殿右手の木の下には「水宮」と「水天神宮」と刻まれた二基の碑が建てられており、水源地に祀られていたものを昭和五年に同地に移設したと伝わっています。

福野の曹洞宗恩光寺は眼目立山寺（上市町）の末寺として創建されました。慶安五年に福野の町全体が大火によって焼失した後、火伏の神である秋葉権現が増山から勧請されたと伝わっています。山門左手のお堂には七基の石仏が納められており、左側から十一面観音、千手観音、聖観音、不動明王、如意輪観音、馬頭観音、不空羂索観音が並んでいます。

近くにある福野の曹洞宗準提寺の境内には小堂内には、浮彫りの三尊石龕が安置されており、左から秋葉権現立像、金毘羅権現立像、不動明王坐像が彫られています。元々は恩光寺の墓地にあったものが同地に移設されました。

高儀の共同墓地の入り口には地蔵と共に一石釈迦三尊像が安置されており、中央に定印を結ぶ蓮華座の釈迦如来坐像、下には獅子に乗る兒文殊と象に乗る兒普賢が彫られています。

最後に訪れたのは、高野山真言宗安居（あんご）寺です。奈良時代の養老二（七一八）年に善無畏三蔵によって創建され、江戸時代には加賀藩前田家の祈願所として保護を受けた歴史ある古刹で、境内には数多くの建造物や仏像があり、県や市によって文化財に指定されているものもあります。西国三十三か所観音も安置されています。

境内の大欅の根元のお堂には七基の石仏が安置されていました。うち六基は六観音として同様の工法で作成されておりますが、右側の一基は石材も異なっているため、六観音とは別に作られたようです。境内には地蔵堂もあり、数基の地蔵の中に聖徳太子二歳像も安置されていました。西国三十三か所観音を巡る道の入り口には、平安時代の藤原道長と同時期に生きた石造の花山法皇像が建てられています。

能登半島地震によって、安居寺でも参道などの灯籠、境内の宝篋印塔、大欅の根元の六観音も倒壊やひび割れなどの被害があったようです。

今回の例会を通して、福光や

高儀　釈迦三尊

安居寺　六観音ほか

福野の石仏は六観音が多く、精緻で豪華な彫りの石仏がとても印象的でした。また、どの石仏も手入れがされており、保存状態もよく、現在も地域の方々に大切にされていることを実感しました。一方で、元日に発生した令和六年能登半島地震によって多くの石仏や鳥居などが被害を受けていることを知り、富山県内でも観測史上初の震度五強を観測した地震の被害の大きさに心が痛みました。明治以降に多くつくられた狛犬も百年経つと倒壊の恐れがあるそうです。地震などの災害や摩耗から石造物を守ることがいかに大切かを考えさせられました。

第６６回例会 福光荒町路傍の堂前にて記念撮影

旧福光町と福野町の石仏巡りに参加して

金子 ルミ子

四月に北陸石仏の会に入会し、五月の例会に初参加させていただきました。尾田先生の御本「とやまの石仏たち」との運命的な出会い、そしてそこから繋がる今日までのさまざまな御縁に感謝しております。

情熱と探究心みなぎる会員の皆様のそれぞれの観点からの考察をお聞きしながらの石仏巡りは私にとって「上質な大人の学びの時間」そのものでした。一体の石像がその地に立ついわれを深く理解した上でみつめると、放たれるオーラのようなものを感じることがありました。

その石工の方、そして時代を超えてそれを大切に守り続けてこられた方々の願いや祈りなのかもしれません。

今回の例会では初対面である平田神社の逆立ち狛犬が最も強く印象に残っています。躍動感あふれるキュートな狛犬、お洒落でスタイリッシュな彫り物から想像できる金沢の石工さんの粋な心意気は、遊び心に寛容な当時の文化から生み出されたのでしょうか。これからも「とやまの石仏たち」にご対面しながら、その由来、伝説、芸術性や人々の信仰心などについてゆっくりじっくりと学んでいきたいと思います。鮮明な写真と詳しい解説入りの貴重な資料を作成され、細かな路地もすいすいと運転しご案内くださった滝本さん、本当にありがとうございました。

北陸石仏の会 第67回例会

―滑川市の石仏めぐり―

令和6年10月20日(日)

参 加 費：会員２０００円（会員外３０００円）
集合場所：①あいの風とやま鉄道滑川駅……８時１０分
　　②道の駅ウェーブパークなめりかわ……８時２０分
申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。
　　住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所
　　※集合場所および時間が不都合な方はご連絡下さい。
　　※感染対策を行い、乗用車に相乗りします。
申 込 先：〒939-1315　砺波市太田 1770　尾田武雄方　北陸石仏の会事務局
締め切り：令和６年１０月３日(木)
案　　内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定　富山県滑川市
◎神明町　櫟原神社／越前狛犬、「道祖神」
◎四間町　曹洞宗徳成寺／「金剛経宝塔」、釈迦と十六羅漢など
◎加島町　路傍／地蔵、法華塔、「北辰星」、「庚申塚」、大岩道道標など
◎柳原　曹洞宗柳原寺／四国八十八ヶ所霊場石仏、弘法大師など
◎柳原　櫟原神社／「道祖神」、住吉大神、少彦名命など
◎柳原　路傍／不動明王、弘法大師、名号塔など
◎坪川　一里塚／法華塔、地蔵、不動明王、青面金剛、名号塔など
◎曲渕　路傍／地蔵、青面金剛など
◎笠木　路傍／不動明王(大岩不動摸刻)、兵隊地蔵
◎四ツ屋　路傍／如意輪観音、地蔵、マンドウ様、三宝荒神、青面金剛など
◎追分　路傍／六地蔵、「庚申塚」、青面金剛、「金毘羅大権現」など
◎東金屋　八幡神社／マンドウ様
諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

令和６年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。